

2018年度「グッドデザイン賞」受賞

2018年10月3日に、移動機開発部の小栗 伸†、日田 勝、椿 達也、田中 美紗、島 杏奈、サービスインベション部の松岡 保静が企画開発した「Japanese Language Training AI」[1]と移動機開発部の小栗 伸、椿 達也、日田 勝、国際事業部の高宮 正明、田中 威津馬、内田 敦、小牧 徹夫が企画開発した「Menu Translator AR」が公益財団法人日本デザイン振興会の2018年度グッドデザイン賞を受賞しました。

グッドデザイン賞とは、さまざまに展開される事象の中から「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じ、私たちの暮らしを、産業を、そして社会全体を、より豊かなものへと導くことを目的とした「総合的なデザインの推奨制度」です。創設以来半世紀以上にわたり、「よいデザイン」の指標として、その役割を果たし続けています。

Japanese Language Training AIは日本に興味をもつ外国人や、日本で働く外国人向けの日本語会話

トレーニング支援サービスで、「語学を学ぶ上で、従来型の決まりきった例文を覚える方法ではなく、一般的に難しいとされる自由な会話や表現の判定など行う学習ツールとして高く評価された。会話学習のためにAI技術を活用した点は適切な使い方の好例であり、また外国人支援を積極的に行う事は今後の日本を考えた場合、大変意味がある」という点が評価され、今回の受賞となりました。

現在は、トップガンのプロジェクトとして、パートナー企業と商材化に向けた実証中です。

また、Menu Translator ARは訪日旅行者向けスマートフォンアプリで、文字だけの料理メニューにカメラをかざすと、料理の写真や食材など、内容がわかる・見えるものとなっており、「画像から文字認識と翻訳を行うサービスとしてはすでにGoogle翻訳アプリがあるが、本対象では料理メニューに特化することで、ただ文字が翻訳されるだけではなく、メニューの写真も提示することにより外国人の理解を深める」という点が評価され、今回の受賞となりました。

文献

- [1] 小栗、ほか：“外国人の日本語会話学習を支援する「Japanese Language Training AI」、”本誌、Vol.27, No.2, pp.6-12, Jul. 2019.



(左から) 島、田中、小栗、日田、椿



† 現在、ソリューションサービス部